

実際の観察することで、生命の神秘を実感する機会となりました。 生命誕生の観察授業 7月5日(金)



本校では本年度、学校経営方針のひとつとして、「理科教育の充実」を掲げています。具体的には、学校パワーアップ事業を活用、実験・観察活動の充実、ICT機器の活用、「サイエンス講座」等外部講師の導入等に取り組むことにより、生徒の興味関心を高めながら、実体験を通して理解を深める学習活動を目指しています。

今回は、生命の連続性「生物のふえ方と成長」の授業として、ウニを材料とした観察授業を実施しました。日本財団「海と日本 PROJECT」のイベントの一環として、お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究所が材料提供を行っている、全国一斉ウニの発生体験に参加し、ご提供いただいたウニの卵や精子を使って、未受精卵や受精卵の成長の様子を実際に顕微鏡で観察する実習授業でした。

内陸地域における海洋教育の実践と担い手養成（海と日本2024）
お茶の水女子大学（日本財団助成事業）

海と日本PROJECT
全国一斉ウニの発生体験
2024年夏 タコノマクラ（学校・拠点枠）



タコノマクラ発生

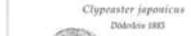
全国各地と関連オンラインイベントで繋がりながら、ウニの受精実験を通して海を学ぼう！表現しよう！



2023夏表現作品コンテストより

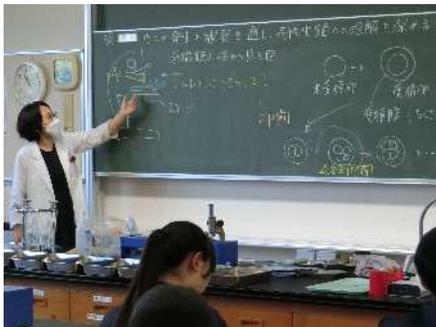


観察レポート部門
準グランプリ
「タコノマクラ幼生の
もぐもぐタイム」
おもしろ実験クラブ



Claytonia japonicus
Didemna 1853

7月5日(木)1～5校時を使い、3学年全クラスで授業を実施しました。はじめに、受精前の卵を顕微鏡で観察したあと、受精させてからの変化を、時間を追って観察しました。さらに受精後数時間経過した受精卵も事前に用意、それらと比較することで細胞分裂しながら成長していく様子を実際に見ることができました。そして、授業の終わりには、前日に受精させ、すでに泳ぎだしているウニの幼生も観察しました。



今回の学習活動では、教科書等での知識を、実際の観察により実感を持って体験することで、理解をより深めることにつながるとともに、生命の神秘を感じる機会となりました。こうした体験が、科学的な視点でモノをとらえる姿勢や、驚きや感動など科学を学ぶことへの興味・関心につながってくれればと思います。この観察授業のために、貴重な教材をご提供いただきました お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究所 様、本当にありがとうございました。